

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月10日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102647		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム メロン	ユニット名	1丁目
所在地	〒311-1113 茨城県水戸市平戸町舟渡380-1		
自己評価作成日	平成26年4月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870102647-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870102647-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年5月23日	評価機関 決 済 日	平成26年10月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の日常を把握し、症状が変化した場合迅速に対応できるようにしております。常に心から認知症ケアを実施しております。問題等が生じた場合も家族と話し合い解決できるように心がけております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は海水浴で有名な大洗港の近くにあるため、夏は事業所周辺が交通渋滞になるが、シーズンオフの期間はのどかな田園風景の中にあつて、利用者は職員の支援を受けながら和やかに思い思いに暮らしている。  
統括責任者が頻繁に来訪して職員の話聞くなど、職員が安心して働くことができる環境づくりをしている。  
地域にある他系列のグループホームや介護老人福祉施設と互いの運営推進会議に出席し合うなど、協力関係を築いている。  
開設時からの職員は多くの業務を遂行しているため、管理者や利用者にとって大切な存在となっている。  
職員は資格取得を目指すなどの努力も重ねている。  
建物は3階建であるが、各階の職員同士は日々連携を図り、協力し合っている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の理念を作り、認知症の入居者様が安心して生活出来る環境作りをし、管理者の下職員一丸なり業務をおこなっています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を全職員で作成し、玄関や各ユニットの居間に掲示するとともに、職員会議や職員研修のほか、朝礼や夕礼時に全職員で確認し、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に来設して頂き、定期的に交流会を行っています。(大正琴・フラダンス等)	毎年1月第4土曜日は地域のクリーン作戦日となっており、事業所からは3名の職員が清掃活動に参加して地域住民と交流している。 利用者は職員と近隣を散歩する際に、地域住民と挨拶を交わして顔馴染みになっている。 例年8月に事業所が主催する「メロン祭り」に地域住民へ参加を呼びかける案内を配り、利用者と一緒に祭りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々のボランティアの受け入れを行うとともに認知症の方の理解を深めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議の開催をする事により、皆様よりご意見・要望を受け、出来る限り応えられるように努めています。	運営推進会議を2ヶ月に1回家族等の代表や市職員2名、地域の代表、地域内の他系列のグループホーム職員、特別養護老人ホーム職員、事業所の管理者と職員が参加して開催し、議事録を作成している。 会議では運営状況を報告するほか、職員研修や防災訓練の実施報告、定例会議の報告を行い、困っている点を相談したり、意見交換をするとともに、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険証の更新や運営上で不明な点がある際に、ご相談させていただいております。	地域包括支援センターとは要支援の利用者の生活状況の報告や相談をしている。市の介護保険課とは利用者の要介護認定更新申請の際に訪問して運営状況を報告するなど連携を図るとともに、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修の実施により、職員一同正しく理解し、身体拘束を行わないケアに努めています。	事業所は身体拘束排除に向けた研修を月1回実施しており、全職員が身体拘束についての理解を深めるとともに、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。早朝や夜間以外は玄関を施錠していない。家族等への同意書や説明書は作成しているが、前回の評価で期待したい内容にあった、身体拘束を実施する場合に備えた「経過観察記録」及び「再検討記録」を準備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束を実施する場合に備え、「経過観察記録」や「再検討記録」を準備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会の実施により、あつてはならない虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を通して、今後学ぶ機会を取り入れたい。今後、利用する方が出てくる可能性がある為、学んでいきます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得される様十分な説明をさせて頂き、ご理解いただいた上で署名・捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部の苦情受付機関に市役所の介護保険課や国保連合会がある事を記載して、契約を行う際にお話させて頂いています。	利用者からは日常の会話を通して意見等を聞き、個人記録簿に記載して全職員で共有するとともに、家族等からは利用者との面会の際や、電話等で運営に関する要望や意見等を聞き、出た意見等を運営に反映させている。 意見箱を設置してはいるが、投函の実績はない。	より真摯な意見を運営に反映させるため、無記名の家族アンケートを実施し、改善に至る経緯や結果等を家族等に周知することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットの会議や全体会議等で意見交換が行われ、その結果をホーム長会議を通して本部職員・代表者に伝える事が出来る。	毎月1回実施する職員会議で管理者は職員から意見や提案を聞き、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・本部職員と事業所のホーム長・管理者が定期的に話し合いの機会があり、職員の勤務状況や個々の相談を伺い、働きやすい環境になるように努めております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に合わせた研修受講を勧めるだけでなく、数回に分けて全職員が同じ研修を受講するように法人内で計画し実施している。毎月一回は研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム協議会に加盟している為、年に何回が研修があり、同業者との交流を図り、情報を共有しております。近隣の事業所の運営推進会に参加させていただいております。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査等により、ご本人の要望等を傾聴を行い、不安を取り除き、安心して過ごせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からも要望等の傾聴を行い、安心出来る生活が過ごせますよう職員一丸となり取り組んでいる。入居前に、ご本人様の状態を把握しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が可能か否か検討し、他のサービスが適しているとき見極めた時は関係機関・ご家族様と相談させてい頂いています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今何が必要なのかを職員が気づき、力になれる事で一緒に生活を共にする家族のような関係になれるように努めています。入居者様一人一人が不安にならない様に努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行動の変化を伝達し、ご家族様に現状の理解をして頂き、意見の交換を蜜に行うことで、確かな交流が得られる様に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	慣れ親しんだ人との交流はとても意味深い事なので、ご家族様に働きかけ面会に来て頂くよう努めています。ご本人様が行きたい場所へドライブや散歩をしております。	元教師だった利用者の教え子や元の住まいの近所の方が面会に来訪している。利用者が墓参りを希望した場合には家族等に連絡したり、家族等の都合が付かない場合には職員が代わって支援をしている。利用者の知人等が面会の際には一緒に話に加わり、昔の話などを聞いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌やゲームを通し、孤立する事の無い様努めています。気の合う仲間との会話の架け橋となるよう心掛ける。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所からご家族様に連絡を取る事はありませんが、相談等を受けた際には、状況に合わせた支援をしていきたいと思えます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り要望に応じられる様努めています。『その人らしく』を大切に接しています。	職員は利用者一人ひとりに声をかけて希望や思いを聴き、意向の把握に努めている。  思いを言い表せない利用者には表情やしぐさなどから判断し、職員で話し合っ利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の際、本人・ご家族様より得た情報を理解し、サービス提供の一環としております。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方に合った支援の提供を心掛けています。目に見えて変化が表出たりしますが、心からの言葉を掛けをし、明るい生活が出来る支援をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が安心して過ごせていただける様にケアについて毎月、ケアカンファレンスを実施しております。職員間で、入居者の心身の状態や生活状況を把握し、ケアを検討し実施しております。現状に応じたモニタリングを行い、介護計画を立てております。	介護計画はあらかじめ利用者や家族等から把握した課題にそって、3ヶ月毎にモニタリングを実施するとともに、長期目標は6ヶ月毎、短期目標は3ヶ月毎に見直している。  心身の状態に変化が生じた場合は、計画作成担当者が利用者や家族等から出た意見や要望等を踏まえ、管理者や職員など必要な関係者で話し合い、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の記入により、日々の様子を職員間で共有できる。また、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行動変化を察知し状況に応じたサービスの提供が行えるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活動受け入れにより、入居者様の豊かな生活が出来る様支援しています。散歩時にも、優しい声掛け等頂き、安全な生活が出来ます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の提携医療機関の往診により、健康管理をしています。また、家族対応にてかかりつけ医の受診をする入居者もいます。受診の前後にご家族様と情報交換を行い、記録しています。受診後も、ご家族様より報告を頂いております。	利用者は月2回定期的に協力医療機関である五軒町クリニックの医師の往診を受けており、他に東前病院や丹野病院、青柳病院も協力医療機関となっている。 上記以外の病院を受診する場合は家族等が受診支援を行っており、結果を家族等から聞き、個人記録簿に記載している。 職員が付き添った場合の受診結果は、受診結果報告書に記載して家族等に報告するとともに、生活保護の利用者の場合は生活保護担当のケースワーカーに報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携して情報交換を行う事で入居者様の健康管理に努めています。また、急変時に指示を仰ぐ事出来る為、安心して過ごせます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリーを作成し、医療機関へ報告しています。入院中も病院と連携し早期退院が出来る様にしている。また、退院後の注意点などの指導も受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは、体調変化時は速やかに状況等を説明しており、病院と連携しながらご本人の希望に添えるように対応しております。終末期に関しては、ご本人様又はご家族様の希望確認しております。	契約時に利用者や家族等に終末期ケアについての対応方針及び同意書を作成して説明するとともに、同意を得ている。 摂食ができなくなった場合を重度化とみなして家族等と話し合い、訪問看護を利用して経過を見るが、最終的には家族等の同意を得て入院となることを説明している。 前回の評価では重度化や終末期に向けた職員の研修が求められていたが、記録として残る研修を実施するまでには至っていない。	利用者が重度化した場合や終末期に入った場合には全職員が事業所の方針に基づき、利用者や家族等の希望を踏まえた支援ができるよう、研修を実施して備えることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応と致しまして、往診時に医師や看護師に指示を仰いでおります。突発的な、事故等にも対応できるように、勉強会の参加により俊敏な行動が出来る様努めたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間を想定した避難訓練を毎月実施しています。また、月に2回、災害伝言ダイヤルの練習を行っています。	夜間想定避難訓練を年に2回実施しているほか、水害や地震、津波、竜巻を想定した日中の総合避難訓練を毎月実施しているが、近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練計画書を作成して職員の担当を決めるとともに、終了後に反省会を行い、次回の課題を話し合っている。 備蓄品は1階の職員宿直室に嚙下が困難な利用者用のベビーフードの瓶詰めや飲料水、アルファ米、インスタント食品を3日分備蓄しているほか、おむつは十分な量を保管している。 備蓄品一覧表を作成して数量や賞味期限を定期的に確認している。	災害時における近隣住民との協力体制を早期に構築できるように、運営推進会議などで呼びかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、敬う気持ちを大切にし、言葉遣いに十分に注意し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを損ねないよう丁寧に接している。 トイレ誘導の際には周囲にわからないように耳元で声をかけている。 利用契約時に「個人情報等秘密保持に関する覚書」にて利用者および家族等から同意を得ている。 利用者の個人記録簿等は事務所の施錠ができる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が図れる入居者様は、自己決定していただくように支援していますが、自己決定が難しい、入居者様は、表情を見ながら対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急を要する場合はお話をさせて頂き、優先順位の元にその入居者様に合った支援の実施をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時に声掛けをし、身だしなみの整える支援をしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に同じ食事を採ることで会話を楽しみながら食事の時間を過ごせる。また、出来る入居者様には準備や後片付けをお願いする事もあります。	職員は同じテーブルに着いて同じ食事を摂りながら、利用者の嚥下や食べこぼしに注意して支援をしている。 ご飯とみそ汁は職員が作るが、おかず類は専門業者が毎食分を配達している。 利用者は食事の前後のテーブル拭きを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者より栄養バランス考慮した献立が届きます。また、水分摂取量を測るように主治医より指示が出ている入居者様に関しては、個別に水分摂取表を記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っています。入居者様の口腔内の状況や力量に合わせ、必要に応じた介助を行っています。口腔ケアについての勉強会を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ずつ排泄チェック表を利用し、入居者様の排泄パターン把握し、トイレ誘導しトイレでの排泄が出来る様しております。入居時、紙パンツ、パットを使用していた方が、布パンツ等に改善する様に努めております。	職員は利用者毎の排泄チェック表に基づいて適切に声をかけ、トイレに誘導している。 利用者は一人を除いて昼間は布パンツにパッドを使用しており、職員は熱心に排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分量の摂取を促し、軽い運動の誘いを心掛け、必要な場合は腹部マッサージを行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	さっぱりとした気持ちの良い事と思って頂く様、入浴前の声掛けを工夫しています。	職員は1日おきに午前中の入浴支援をしている。 通院や体調の変化、入浴拒否などで入浴ができない場合は、時間をずらしたり翌日に支援するなど、利用者の状態に応じた入浴支援をしている。 浴室は一般浴槽のほか、機械浴槽を設置して利用者が安心して入浴ができるように配慮している。 季節が感じられるよう菖蒲湯や柚子湯などの入浴支援をしている。 入浴を拒否した場合は「髭が伸びましたね」などと声をかけて入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴は、二日に一度入っていただくようにしておりますが、入居者様のご希望で毎日、入浴出来る様にしております。入居してから、2年間毎日入浴されている方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ずつお薬表を作成しファイルしており、職員がいつでも、薬の目的、副作用を見ることができます。又、入居者の体調に応じて、主治医に連絡し、処方していただいております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームらしく、入居者様がご自宅で過ごされているように、台所などのお手伝いをしていただいたり、歌、体操のレクリエーションや他フロアと交流する事で、気分転換をしております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お正月の初詣、3月お花見、5月ドライブなど四季を感じていただくように、お天気の良い日を選んで、ドライブに出かけております。又、日常においても事業所周辺の散歩に行く等支援しております。	利用者は週3回から4回職員と事業所周辺を散歩し、近隣住民と庭の花の話題などで会話を楽しんでいる。 ひたちなか市文化会館で行われる菊祭りや近くの田んぼ、海などに出かけているほか、季節に応じて近隣の梅や桜の花見に出かけている。 利用者が希望する遠方へは、家族等と一緒に外出ができるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を入居者が管理する事はありませんが、手元にお金が無い事で不安になられる入居者様に対しては、ご家族様の了解を得て所持される場合があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る限り希望に応える様に努めていますが、ご家族様との関係性もある為、日にちを決めさせて電話を掛ける場合もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、清潔に保たれており、大きな窓から陽光はカーテンで調節し、居心地よい場所となっている。居間には、腰掛けられる高さに作られた畳み敷きの空間があり、利用者様が洗濯物を畳んだり、くつろげる場所になっています。	居間兼食堂の一角に畳み敷きのコーナーを設け、利用者が横になったり、腰を掛けたり、職員が利用者と洗濯物を畳むスペースになっている。 台所のカウンターは利用者が楽に下膳することができるように低めに設えてあり、台所からも食堂からも双方の様子がわかるようになっている。 壁面には外出した時の利用者の写真を掲示しており、利用者は思い思いに楽しんでいる。 居間には観葉植物や季節の花を配置して居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行動して頂き、入居者様と会話も出来る様に席の移動もしております。楽しい話題提供もしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物やご家族様に写真など思い出のある物をお持ち頂き、今までと同じような環境で生活して頂けるようにご家族様にお話をしています。居室には、クローゼット、ダンス、ベッド、エアコンが設置されている。	居室はクローゼットや洗面台、エアコン、ベッド、カーテン、カレンダー、整理箆笥、照明器具が備え付けられている。利用者は机や椅子、時計、テレビなど、自宅で使い慣れた物品や鉢植え、家族の写真、利用者が作った作品などを自由に持ち込み、使い易い居室づくりをして居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様自身の出来る事・分かる事を把握し見守りを行い、安全で安心した生活が送れるように支援しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	1, 毎日ある ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに ○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームメロン

作成日 平成26年11月6日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	やむを得ず身体拘束が必要になった場合に備え、「経過観察記録」や「再検討記録」を準備する。	身体拘束実施に記載するように、「経過観察記録」や「再検討記録」を準備する。	書類を準備する。	完了
2	6	より真摯な意見を運営に反映させるため、無記名の家族アンケートを実施し、改善に至る経緯や結果等を家族等に周知する。	入居者様、ご家族様にアンケートを実施し、運営に反映させる。又、家族会等で周知する。	・常にアンケート記入ができるよう設置場所検討や声掛けを行う。 ・家族会を開催する。	H27.6 (8カ月間)
3	12	利用者が重度化した場合や終末期に入った場合には全職員が事業所の方針に基づき、利用者や家族等の希望を踏まえた支援ができるよう、研修を実施して備える。	・重度化や終末期については、本人、家族の希望を確認し、事業所でできるかできないかを家族に説明する。 ・見取り介護を行い実際に、職員が不安にならない様に研修を行う。	・入居時、看取りについてできるかできないかを家族に説明し、同意を得る。 (現在は、看取りを行っていない) ・看取りができる体制の時は、その都度家族に説明し、同意を得る。 ・職員教育の研修や勉強会の開催。	H27.6 (8カ月間)
4	13	災害時における近隣住民との協力体制を早期に構築できるよう、運営推進会議などで呼びかける。	運営推進会議時、災害訓練等の参加を促す。災害発生時、協力体制をお願いできるようにする。	・運営推進会議を活用し、避難訓練時、近隣住民の参加をお願いする。 ・地域の自治会や民生委員の方に、相談し参加を得られるようにアドバイスを頂き、実践する。	H27.6 (8カ月間)
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。